

日本の輸出先を先行する中国ビレット

目 次

1. 日本のスクラップ輸出の現状と課題	
(1)15年の特徴	1
(2)課題	1
2. 中国のビレット輸出	
(1)15年推定2,610万tの向先	2
(2)16年1月のビレット輸出と今後の展望	3
①16年1月の推定ビレット輸出	3
②今後の展望	3
③ビレット価格からみた鉄スクラップ価格の予想	4
3. 輸出主要国の状況	
(1)韓国	4
(2)台湾	5
(3)ベトナム	5
4. 日本の輸出先を考える	6

2016年3月7日

(株)鉄リサイクルング・リサーチ

代表取締役 林 誠一

15年、日本は減速する韓国マーケットの代替に東南アジアなど遠隔地へ転進する動きが加速した。しかしマーケットにはすでに中国の安価ビレットが入着してきている。今回レポートでは、「遠隔地」も決して「楽天地」でないことを検証し、持続可能な競争力とは何か、早急に取り組むことを提案したい。あと10年もしないうちに中国や韓国がスクラップ輸出国に転じ、市場はさらに競争世界となることが予想されるからである。

1. 日本の鉄スクラップ輸出の現状と課題

(1) 15年の特徴

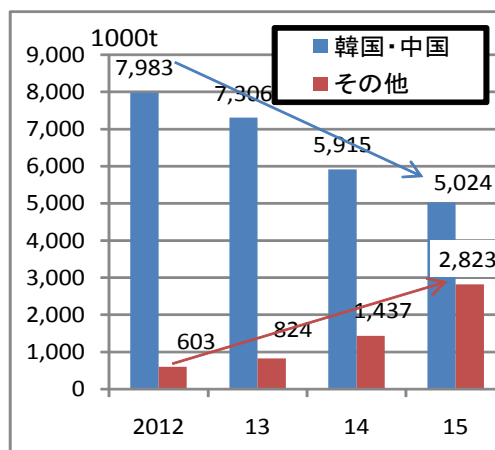
15年の鉄スクラップ輸出は785万tとなり、前年を51万t(6.9%)上回った。12年の859万t以来、13年813万t、14年734万tと減少が続いていたが4年ぶりに増加した。その原動力に「その他」が増加していることが挙げられる。12年の韓国+中国798万tは15年には502万tとなり、この3年間で約300万tも減少したが、「その他」は60万tから280万tに増加し、ウエイトは7%から36%へ大きくなってきている。月次(図表2)でその推移をみると、15年11月にはついに両者は並んだ。

「その他」では台湾の復活とベトナム向けの著増がある。また、最近では、インド、インドネシア、バングラディッシュなどが加わってきている。すなわち遠隔地に対応した大型バルクキャリアの実施が行われ始めている。

(2) 課題

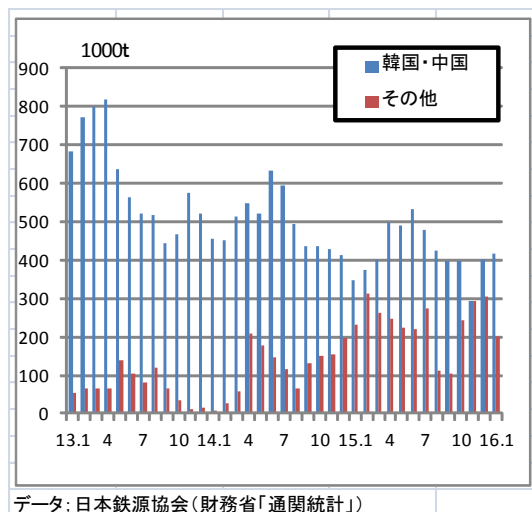
主力の韓国は内需の不振に加えて、中国の安価ビレット入荷が増加しており、今後は国内の自給化進展も加わって、もはや年間480万tとなった12年を超えることは考えにくい。むしろ更に漸減を余儀なくされるだろう。「その他」へ転進する動きは必然であり、行き先が遠隔地になるほど大型船化していくことも必然となる。しかし現状、日本のスクラップ輸出の主要積み出し地域東京湾では、2万t級は船橋中央埠頭と神奈川の鈴繁埠頭に限られ、しかも対応する重機や後背地が確保できていないなどの港湾設備の問題がある。積み込みはトラック to シップを余儀なくされ20日も日数がかかるなど課題点が多い。また、大

図表1 日本の鉄スクラップ輸出(年次)



データ: 日本鉄源協会(財務省「通関統計」)

図表2 日本の鉄スクラップ輸出(月次)



データ: 日本鉄源協会(財務省「通関統計」)

型バルクの場合は量を確保する余り、H2に薄物や非鉄などの混合を招いていることも危惧される。一方、インドのように港湾の環境保全や陸揚げ後の道路事情からコンテナ化が進んでいる国もある。対策としてH2を短尺化することにより、コンテナの積載効率を上げることや付帯不純物の軽減、あるいは先方の狭い炉投入口に作業効率化をもたらすなどの効果が挙げられよう。

今後の遠隔地輸送については、大型バルクキャリアのみでなく、コンテナでの小口配送も視野に入れるなど相手国の事情を踏まえた柔軟な発想が肝要である。

2. 中国のピレット輸出

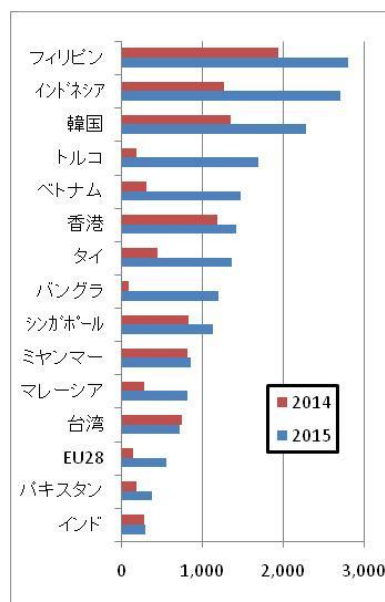
(1) 15年推定 2,610万tの向け先

15年の中国推定ピレット輸出量2,610万tについて、国(地域)別に推定を試みた。最大輸出地域は韓国など東アジアを加えたアジアが67%であり、うちASEAN6カ国が全体の約40%を占める。次いでアフリカ10%、トルコを含む欧州8.7%、中近東7.3%、中南米4.4%等であり、前年との比較では、アジア、中近東を低減させ、欧州、アフリカ、中南米を増加させるなど向け先の広範囲化が窺える。しかし、アジア向けのうちASEAN6は37.1%から39.6%へ、バングラディッシュは0.7%から4.6%へ増加させるなど国によって差異がでてきている。

15年を国別(注;地域計を除く)にみると1位フィリピン280万t、2位インドネシア270万t、3位韓国230万t、4位トルコ170万t、5位ベトナム150万t、6位香港142万t、7位タイ136万t、8位バングラディッシュ120万t等であり、前年との比較では、トルコ150万t増、インドネシア144万t増、アフリカ142万t増、ベトナム118万t増、バングラディッシュ111万t増が目立つ。うちインドネシア、ベトナム、バングラディッシュは15年秋から日本が輸出ドライブとなっている国々である。

	2015		2014		増減	
	量	率	量	率	量	率
輸出計	26,086	100.0	13,781	100.0	12,305	89.3
ア						
韓国	2,289	8.8	1,349	9.8	940	69.7
台湾	730	2.8	753	5.5	-22	-3.0
ジ						
香港	1,420	5.4	1,188	8.6	232	19.5
ASEAN6	10,322	39.6	5,108	37.1	5,215	102.1
ア						
ミャンマー	859	3.3	828	6.0	31	3.8
バングラ	1,203	4.6	93	0.7	1,110	1194.4
67%						
パキスタン	378	1.5	197	1.4	181	91.8
インド	295	1.1	286	2.1	9	3.1
中近東	1,908	7.3	1,434	10.4	474	33.1
トルコ	1,693	6.5	192	1.4	1,501	781.8
EU28	561	2.2	145	1.1	416	286.3
アフリカ	2,608	10.0	1,187	8.6	1,421	119.7
中南米	1,154	4.4	389	2.8	764	196.4
その他	667	2.6	632	4.6	35	5.5

図表4 主要国別(1000t)



(2) 16年1月のビレット輸出と今後の展望

① 16年1月の推定ビレット輸出

内需低迷が継続しており、余剰ビレットの輸出は16年となっても止んでいない。中国財務省は16年1月1日より、ビレットと銑鉄の輸出関税を25%から20%に引き下げたが、1月の通関実績のビレットは1,000tに過ぎず低減効果は未だ窺えない。一方、HS72283090 その他合金鋼棒鋼輸出量は321万tとなり、うち合金鋼添加ビレットは247万tと推定される（その他合金鋼棒鋼のうち真の合金鋼棒鋼を14年の実績から22.9%と見なした）。前月の287万tより約40万t減少したが、右図でみると減少に転じたか？よりも高水準が持続しているという見方が適正だろう。一方、平均輸出単価は258ドル/tとなり前月の276ドル/tからさらに18ドル（6.5%）低下した（注；本物の合金鋼棒鋼を含むため実際のビレット価格はもう少し低いと考えられる）。

輸出単価を15年1月時点と比較すると436ドル/tは258ドル/tへ低下し、減少率は40.8%減である。一方、鉄鉱石のスポット輸入価格は64.8ドル/tから40ドル/tへ38.3%減であり、ほぼ一致する。

② 今後の展望

高水準な輸出はいつまで続くか可能性を挙げてみたい。

第一は4億tに及ぶ過剰設備が解消されるまでである。中国国務院は1月末に、16年から始まる第13次5ヵ年計画で1億t～1億5000万tの能力削減を実施すると発表した。結果、鉄鋼業の稼働率は現状の60%台から70%強となり、収益改善の基となると見ている。しかし今後5年間の削減目標であって、地方財政や雇用がからみ5年後間際まで難しいとの見方が大勢を占める。

第二は内需が回復して余剰ビレットが軽減され輸出せずに済む時である。中国の鉄筋棒鋼生産量は固定資産投資の減速にあわせて14年12月から前年同月を下回る水準が続いている。この生産が回復するまでである。

第三は安価ビレット輸入増大によって起きる貿易摩擦である。ベトナムではセーフガード発令が検討されているようだが、実施されればロシアやウクライナ産を含む全てのビレット輸入が対象となるばかりか、廉価で息をつなぐリローラを追い込むことになり、簡単ではない。しかし摩擦が多発すれば、輸出にブレーキがかかるかもしれない。

図表5 推定合金鋼添加ビレット輸出

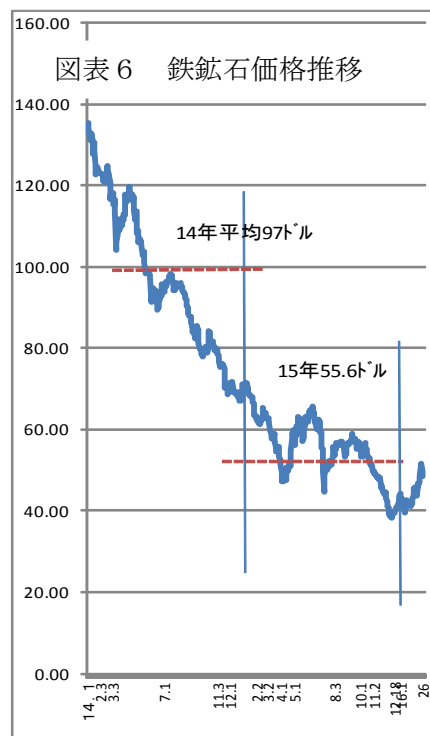


そして第四は鉄鉱石価格の動向である。春節後48ドル/tの持ち直し状態は、多分に増産期待感が引き上げていると思われる。資源メジャーは、中国減産にも関わらず2020年粗鋼10億tを前提に設備増強姿勢を緩めていない。15年末には年産5,500万tの新鉱山ロイヒルが立ち上がった。これら新設備の稼働維持と、中小鉱山への抑制策から供給余りは当分続くと見る。

③ビレット価格からみた鉄スクラップ価格の予想

鉄鉱石価格の低下方向は止まない。16年の鉄鉱石価格が40ドルからさらに35ドル/tに低下した場合、単純計算でビレット価格は230ドル/tを切ることが見えてくる。ベトナムの電炉コストは130ドル/tから150ドル/tと言われており、230ドル/tをビレット購入価格とすれば、鉄スクラップ購入対価は100ドル/t or 80ドル/t（円レート114円/ドルで換算すると11,400円/t～9,120円/t）となる。

現状の鉄スクラップ16,000円/t台の強含み相場は、やがて低下に向かい1,100円/t台を目指す予想される。



3. 輸出主要国の状況

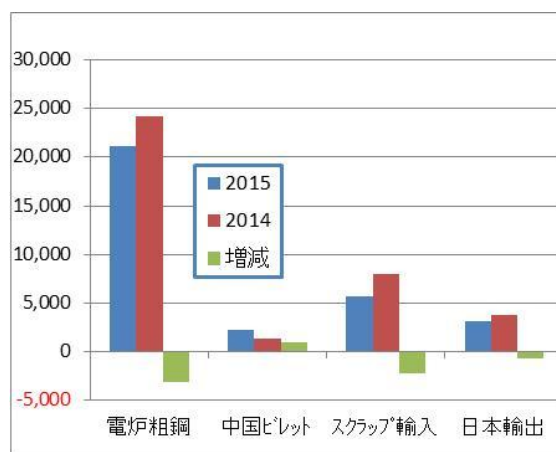
(1) 韓国

15年の電炉粗鋼は内需低迷もあって前年の2,425万tから2,117万tに約310万t減少したが、中国ビレット入着が135万tから230万tに94万t増加したことも影響したと推察される。生産減によりスクラップ輸入量は、800万tから576万tに225万t減少し、日本の韓国向け鉄スクラップ輸出量は前年の381万tから311万tに70万t減少した。70万t減少しても韓国における日本シェアは14年の47.8%から15年は54.4%に上昇しており、「善戦した」状態となっている。しかし16年は中国ビレットの継続に日本は放射能対応も加わるので15年を更に下回ると予想する。

図表7 韓国の需給

単位1000t

	2015	2014	増減
電炉粗鋼	21,170	24,246	-3,076
中国ビレット	2,289	1,349	940
スクラップ輸入	5,757	8,002	-2,245
日本輸出	3,105	3,810	-705



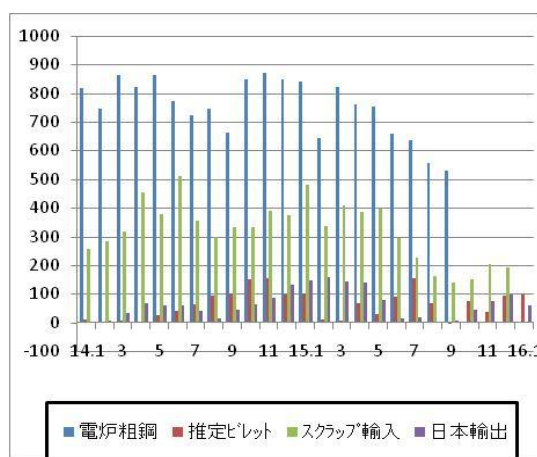
(2) 台湾

15年のGDP成長率は前年比0.85%増に止まった。09年以降最低の低水準である。輸出の4割弱を占める中国向け不振が経済活動全体に影響している。電炉粗鋼は1-9月実績の年換算で827万tと見込まれ、前年を130万t下回る。建築許可面積が前年比15.6%の大幅減となった点が影響したと推察される。電炉生産減により輸入スクラップを90万t減少させ、一方、中国ビレットはほぼ前年並みに留めるコストパフォーマンスが窺える。こうした中、日本の輸出は32万t増加させるなど「善戦」した。月次で見ると14年12月～15年4月の13万t～16万t月の新断を主体とした輸出が寄与した。

図表8 台湾の需給

単位1000t

	2015	2014	増減
電炉粗鋼	8,265	9,577	-1,312
中国ビレット	730	753	-22
スクラップ輸入	3,373	4,279	-906
日本輸出	923	607	316



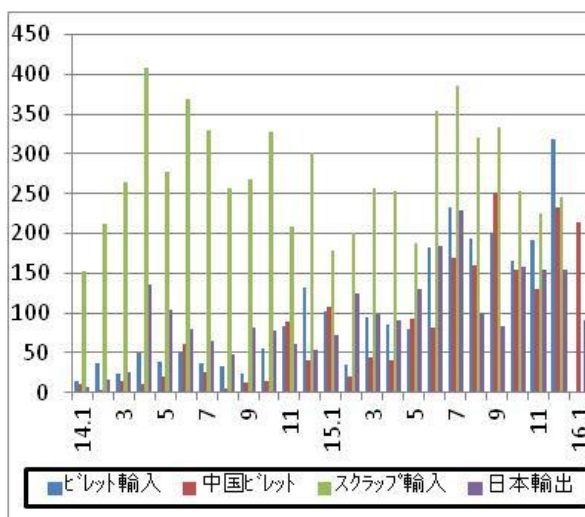
(3) ベトナム

15年の粗鋼生産は592万tとなり、前年比7.4万t増に留まった。目標の600万tは超えきれなかった。うち電炉シェアは75%から70%に低下した情報があり、電炉粗鋼は24万t減少したと見られる。これに順じてスクラップ輸入量は前年を18万t下回る319万tとなった。背景に中国ビレット入着が前年の31万tから148万tに著増していることが影響していると推察される。しかし日本は着実に輸出量を増加させており、15年は前年比ほぼ倍増の158万tとなり、シェアは22.3%から50%近くに上昇した。月次の推移を分析すると、スクラップ輸入量低下は15年7月からはじまるが、ビレット輸入増加の時期と逆符号している。現状ではビレット入着量とスクラップ輸入量がほぼ拮抗状態となっており、スクラップ輸入を代替する動きが見られる。従って今後も安価なビレット輸入が継続すれば、スクラップ輸入は減ることが予想される。

図表9 ベトナムの需給

単位1000t

	2015	2014	増減
粗鋼生産	5,921	5,847	74
(電炉粗鋼)	4,145	4,385	-240
ビレット輸入	1,885	578	1,307
うち中国ビレット	1,484	307	1,177
スクラップ輸入	3,194	3,375	-181
日本輸出	1,579	753	826



4. 日本の輸出先を考える

日本の鉄スクラップ輸出先が遠隔地に転戦しつつある中、すでに中国は莫大な量のビレットを各国に輸出している。双方の輸出状況を下表に国別に整理し、前述3カ国以外の活路を考察した。タイ、シンガポール、インドネシア、フィリピン、バングラディッシュは、もはやビレット輸入国であってスクラップを必要とする余地は少ないとさえ考える。特にフィリピンは年間粗鋼生産規模を超えるビレットが入着しており電炉業の単圧化が進展していると察しられる。バングラディッシュには日本は16年1月3万t近く輸出しているが、中国からは15万7000tものビレットが入着しており、電炉設備拡大の情報があるものの、年間粗鋼9万t (WSA 統計) のデータの信憑性も含め契約続行には調査が必要だろう。マレーシアは還元鉄生産国でもあり、別な問題がありそうだ。

こうして遠隔地の日本のスクラップ輸出先を考えると、粗鋼規模が大きくビレット入着の少ないインドとパキスタンが狙い目となる。中近東に触手を伸ばす場合は、すでにイラン、サウジアラビア、オマーン、レバノン、アラブ首長国等で中国ビレットが増加中であることを念頭に入れておく必要がある。

	日本のスクラップ輸出			中国のビレット輸出(推定)			粗鋼生産(WSA)	
	2014	2015	2016.1	2014	2015	2016.1	2014	2015
韓国	3,808	3,105	304.6	1,349	2,289	159.6	71,543	69,670
中国	2,095	1,918	112				822,698	803,825
台湾	608	923	59	753	730	97	23,221	21,370
香港	3	3	0.1	1,188	1,420	98.8		
ベトナム	752	1,579	91	309	1,486	215	5,847	5,921
タイ	4.5	22	1.2	453	1,363	160	4,095	3,673
シンガポール	5.4	6	0	842	1,143	79	540	
マレーシア	1.1	25	2.6	293	817	40.4	4,316	
インドネシア	46.1	156	13	1,270	2,710	264	4,428	
フィリピン	0.3	0	0	1,941	2,804	302.6	1,196	
インド	8	60	5	286	295	31.3	87,292	89,582
バングラディッシュ	0	47	28.9	93	1,203	157.3	90e	
パキスタン	4.6	3	0.3	197	378	46.5	2,423	2,892
中近東	0.2	0	0	1,434	1,908	216.3	29,986	
トルコ	0	0	0	192	1,693	230	34,035	31,517
アフリカ	0	0	0	1,187	2,608	319.3	15,022	
中南米	0	0	0	389	1,154	51	45,043	
その他	2.3	1.5	0	1,605	2,087	0	518,460	
計	7,339	7,847	617.7	13,781	26,088	2,468	1,670,145	

調査レポート NO 33

「日本の輸出先を先行する中国ビレット」

発行 2016年3月7日(月)

住所 〒300-1622 茨城県北相馬郡利根町布川 253-271

発行者 (株)鉄リサイクリング・リサーチ 代表取締役 林 誠一

<http://srr.air-nifty.com/home/> e-mail s.r.r@cpost.plala.or.jp